





ANMC21 研修実施報告書

1 研修名	公衆衛生研修-公共施設の衛生的な維持管理と住民への啓発 -
2 目的	公衆衛生、特に、公共施設における衛生管理や利用者のモラルの普及啓発について、主に公衆トイレを事例として取り上げ、研修参加者間の経験の共有、意見交換や関連施設の視察を行う。この研修を通じて、各都市において公共施設の衛生管理や住民への衛生教育に取り組んでいくことができる人材を育成する。
3 担当局	東京都政策企画局
4 実施日	平成 27 年 1 月 21 日（水）～23 日（金）
5 参加都市・参加者	<p>参加者計 15 名（各都市の代表者のみ下記に記載）</p> <p>バンコク バンコク都環境部廃棄物し尿マネジメント課サイエンティスト カヌアングニット ノンパナポル氏 ほか 1 名</p> <p>デリー ニューデリー市行政委員会セクレタリー ニキル クマール氏 ほか 2 名</p> <p>クアラルンプール クアラルンプール市 健康環境部副部長 アハマド ザイディ ザイナル アビディン氏 ほか 9 名</p>
6 研修概要・ 研修の様子（写真など）	<ul style="list-style-type: none"> ・東京都の施策に関する講義（東京都における公衆衛生の基本政策、東京ふれあいロードプログラム） ・各参加都市の施策に関するプレゼンテーション及び意見交換 ・視察（東京駅、上野恩賜公園、世田谷小学校） ・総括ディスカッション <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>プレゼンテーション</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>視察</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  <p>総括ディスカッション</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>集合写真</p> </div> </div>

7 成果

研修初日、東京都福祉保健局より、「東京都における公衆衛生の基本政策」についての講義を行った。講義では、公衆衛生政策の歴史や、環境衛生行政における官民の役割分担などの説明があった。その後、各都市の参加者がそれぞれの都市の公衆トイレに関する施策の現状と課題への取組について発表を行った。これにより、各都市の抱える課題を把握することができ、さらに、参加者間の相互理解を深めることができた。

初日の午後は、東京駅を視察。東京駅は1日に40万人以上が利用する巨大なターミナル駅であり、参加者は、施設管理者が実施する公衆トイレの管理方法について説明を受けた。まず、清掃マニュアルのDVDを視聴した後、実際にトイレを視察し、清掃を行っている様子を確認した。利用者数の多い公衆トイレを清潔に保つための民間企業の取組について、理解を得ることができ、参加者からは清掃の質の高さに驚きの声が上がった。また、清掃担当者の待遇等についての質問があった。

2日目には、都立上野恩賜公園を訪問し、不特定多数の人が訪れる観光スポットにおける公衆トイレ管理の様子を視察した。参加者からは、落書きや破損への対応方法から管の点検方法まで、幅広い質問が寄せられた。東京駅と上野公園の視察により、公衆トイレを清潔に維持するための施設管理者の取組への理解を深めることができた。

その後、世田谷区立世田谷小学校を訪問し、人々に公衆トイレを清潔に使ってもらうための方策のヒントとするため、児童による学校清掃の様子と道徳の授業を視察した。道徳の授業は公共心をテーマとしたものであり、参加者は、教師の指導により自分で考え発言する児童の様子を見学した。

最終日には、住民を巻き込んだ公共施設の維持管理の取組の例として、「東京ふれあいロードプログラム」について説明を受けた。これは都民との協力により都道の清掃や花壇の管理を行い、利用者のモラル向上と景観維持を目指すもので、多くのボランティア団体が参加しているプログラムである。参加者からはボランティアのインセンティブや、支援の内容について質問があった。

最後に、日本トイレ協会会長の高橋志保彦氏をお迎えし、総括ディスカッションを行った。ディスカッションでは、研修全体の振り返りを行うとともに、各都市のトイレに関する文化の違いを確認しながら、本研修で得られたことを今後どのように活かしていきたいかについて、意見交換を行った。

参加者からの意見の一部

・東京では小学校からの教育により、人々の間にルールを守る態度が浸透していることがわかった、その結果、ふれあいロードプログラムへの参加率も高く、みんなでオープンスペースを適切に使用しているのだと思う。

・自分の都市では教育水準があまり高くなくルールを順守しない人々が多いが、幼いころからモラルを教えることの大切さがわかったので、ぜひ

取り入れたい。

・駅の視察を通して、清掃担当者が人々から尊重されており、誇りを持って働いていることが理解できた。そのため、清掃の質も向上するのだと思う。自分の都市でも清掃担当者の地位向上に力を入れていきたい。

日本の公衆トイレが清潔である理由として、アジア各国からは日本人の気質によると思われがちである。しかし実際は、幼いころからの教育により習慣づけていたり、施設管理者が維持管理に手間とコストを割いていたりと、関係者の努力による部分が多い。

本研修は、そのような東京の取組を紹介し、各都市の施策の参考としてもらうことを主眼として企画した。参加者の感想からは、その意図が伝わったことがうかがえ、本研修の成果は高いものであったと考えられる。